

# ニューズレター 70

2021. 7. 27

経済社会学会

The Society of Economic Sociology

巻頭言 第57回全国大会のご案内 自著を語る 経済社会学を教える 部会報告 議事録  
ホームページのご案内 会員異動 年報自由投稿論文募集

## 巻頭言 Remorseful Day 悔恨の日（々）

上沼 正明

編集担当の先生から、執筆依頼を頂く度に、学会事務局の担当として表に出ず「裏方」に徹する思いで、遠慮してきました。が、今回引き受けたのは、まず、4月中旬から6月初旬まで学会HPが閲覧不可となり、会員の皆様にご迷惑を掛けたお詫びをしたく思いました。また、編集担当の先生から、本NLが70号の区切りになると知らされたからです。

学会HPは、最初は、会長をされた佐々木先生がご自身で開設されました。英文の学会名と歌舞伎緞帳がトップで、日英の学会名と目次に、高田保馬の写真が次ページに表示されます。海外への情報発信を意図された構成でした。それを小生が引継ぎ、早稲田大学の学会WWWサービスの無料利用を2004年に申請登録し、今日に至っています。当時は、本学会のアットホームな雰囲気記録し、広報しようと、デジカメで役員会、部会、大会、懇親会の現場を撮影して、記事の周辺に貼りつけました。但し、殆ど閲覧されず、役員会でHPを映写したりしましたが、半ば黙認され、その後漸く、渉外関係でのURLが認められました。

当時も、本学会の本質は何か、と問われ続けていて、勝手に学会員の活動の総体だと考えてHPを編集し、例えば、「リンク集」>会員のホームページや、「(旧)キーワード集」で渡辺先生の「埋め込み」概念などを立上げました。同様の趣旨で、歴代のNL編集担当の先生と一緒に、「経済社会学を教える」「自著を語る」「自己紹介」などのコーナーを企画してきました。

70号を迎えるNLの創刊号(1986年12月)は、編集を担当した宇佐見先生にお聞きしたところ、当時の板垣会長が巻頭言で「いわば双方交通的な情報共有のフォーラム的機能をもつものに育てていきたいと念願したからです。」と記されています。板垣先生は、東部部会のあと、必ず、大隈会館でコーヒーなどご馳走してくれて、幹事の小生を「セイメイ君」と呼んで、「学会記事」案を真っ赤に添削して下さいました。AとBの「と」の構造が大事なんだ、と、助詞さえも疎かにしなかった板垣先生は、上から目線の権威主義と一切無縁に小生達を遇してくれて、正に「自発的結社」の一員であることの意味を理解しました。

「学会記事」は、1号から16号まで『年報』巻末に会則などと一緒に掲載されました。『年報』の学会記事を調べて行くうちに、いろいろな発見や気づきがありました。小生は、難波田門下の寺田、田村先生の推薦で83年に入会を許されましたが、翌年12月から早稲田の永安研究室に学会事務所が当分の間置かれました。学部助手としてお手伝いが始まり、現在に至ります。また、92年度合同役員会では、「大会参加費—前納、早期納入の場合に1000円割引」が承認されています。

今回の原稿依頼を引き受けた最後の理由は、高田保馬、難波田春夫、大熊信行などを論じた牧野邦昭(2020)『戦時下の経済学者—経済学と総力戦』中公選書を読んだからでした。高田保馬のテキストが、当時の文官高等試験の試験委員の書として必読であった、というのが発見でしたが、この書は年報などで書評済みでしょうから、ここでは、学会記事調べの際に再発見した向井利昌(1984)「高田保馬における資本主義の運命の社会学的考察」を挙げるのみとします(『年報』6号 pp.77-123)。本学会でさえ、効率優先で、やがては、面倒な事務仕事も、外部委託か廃止になるのでしょうか。

本原稿の題名は、英国のコリン・デクスター原作「主任警部モース」の最終話で、主人公が詠むA・E・ハウスマン遺稿詩集の節に依りました。suzyさんのブログによれば、「一日の流れを描きながら、夢と希望、決意によって始まった人生が、最終的には後悔と絶望と共に死の時を迎えてしまうという、人の一生をそこに重ね合わせている詩かと思います。」とあります。(早稲田大学)

## 第57回全国大会のご案内

大会準備委員長 伊東真理子(東京福祉大学 名古屋キャンパス)

経済社会学会第57回全国大会は、2021年9月4日(土)・5日(日)、主催校の東京福祉大学 名古屋キャンパス10号館(愛知県名古屋市中区)にて、「人生100年時代における経済社会学」を大会テーマに、オンライン(Zoom利用)開催されます。

参加申込などは、大会ホームページ(<https://sites.google.com/view/soes2021/>)にてご確認ください。

- 大会事務局：東京福祉大学 名古屋キャンパス 10号館  
連絡先：〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内2-16-29  
Tel：052-203-0576(代)  
E-mail：keizaisyakai2021@gmail.com

- 大会プログラム
  - ・共通論題：報告各30分、予定討論各15分、一般討論35分
  - ・自由論題：報告30分、予定討論10分、一般討論10分

経済社会学会第57回全国大会プログラム  
2021年9月4日(土)～9月5日(日)

自由論題 報告30分 予定討論10分 一般討論10分

【第1日 9月4日(土)】

	A会場	B会場	C会場
[1]	10:00 子どもの物質主義的傾向には何が影響しているのか：ジェンダー視点からの分析 報告者 松川誠一(東京学芸大) 討論者 間々田孝夫(立教大) 座長 藤岡真之(弘前学院大)	日本とマレーシアの金融互助の比較 報告者 恩田守雄(流通経済大) 討論者 永合位行(神戸大) 座長 古市太郎(文京学院大)	日本で暮らす外国人と社会保障制度 報告者 田村穂(神戸大・院) 討論者 小林甲一(名古屋学院大) 座長 宮垣元(慶応義塾大)
[2]	11:00 エージェントベーストモデルによる分層モデルのデータ分析：外国人による居住地選択を対象にして 報告者 織田輝哉(慶應義塾大) 小田中悠(東京大) 討論者 松川誠一(東京学芸大) 座長 水原俊博(信州大)	女性の活躍に関する一考察：人的資源の有効活用の射程 報告者 岩田英子(防衛研究所) 討論者 山本圭三(摂南大) 座長 古市太郎(文京学院大)	新しい価値観とマルチステージに着目した、就職氷河期・ひきこもり支援の展開 報告者 河合純(東京福祉大) 討論者 豊山宗洋(大阪商業大) 座長 宇佐見義尚(板垣与一記念館)
	11:50 昼食		
	13:00 大会校挨拶 中島恒雄(東京福祉大学 総長) 伊東眞理子(東京福祉大) A会場		
	13:10 共通論題「人生100年時代における経済社会学」A会場 座長 恩田守雄(流通経済大)・村上寿来(名古屋学院大) 報告 各30分 (1)藤岡秀英(神戸大)「夢前花街道事業との連携による加点式健診事業」 (2)齋藤嘉孝(法政大)「家計の研究意義」 (3)村川浩一(東京福祉大)「ポストコロナ時代の高齢者ケア」		
	14:50 休憩		
	15:10 共通論題討論 各15分 (1)討論者 田中人(愛知学泉大) (2)討論者 秋山太郎(名古屋学院大) (3)討論者 森周子(成城大) 一般討論 35分		
	16:30 第1日終了		

【第2日 9月5日(日)】

	A会場	B会場	C会場
[1]	10:00 ラウンドテーブル ロスト近代の消費文化 ：道徳と倫理・無印良品・ミニマリズム [司会] 畑山要介(豊橋技術科学大) ① 消費における道徳と倫理：ダニエル・ミラーの人類学的消費理論 /小田和正(北海道大・院) ② 普通のくらしの良さとは何か？：無印良品が提示する清潔な消費文化 /鈴木康治(第一工大)	T・H・グリーンとA・セン：自由とケイパビリティ 報告者 竹口隼人(神戸大・院) 討論者 大野正英(麗澤大) 座長 近藤真司(大阪府立大)	第四次産業革命時代における中国の老舗企業のデジタルトランスフォーメーションに関する研究：「コロレティブのパラダイム・シフト」を中心に 報告者 徐天堯(大阪産業大・院) 討論者 木幡伸二(福岡大) 座長 伊東眞理子(東京福祉大)
[2]	11:00 ③ 消費ミニマリズムの倫理：消費社会において「消費しない生活」とは何か /橋本努(北海道大)	ケイパビリティ・アプローチと配分的正義：個別的善から共同善へ 報告者 佐々木亘(鹿児島純心女子短期大) 討論者 小島秀信(同志社大) 座長 平手賢治(岐阜協立大)	A Study on Relational Leadership and Disruptive Innovation in the Age of Industry 4.0 : With Special Reference to the Saudi Tourism SMEs 報告者 アルマルイヤーセル(大阪産業大・院) 討論者 若林直樹(京都市大) 座長 高橋一正(名古屋大)
	11:50 昼食		
	13:00 会員総会 A会場		
[3]	13:30 デジタル化時代の消費文化 報告者 寺島 拓幸(文京学院大) 討論者 柏木理佳(戸板女子短期大) 座長 鈴木康治(第一工大)	エルマー・ナスのリーダーシップ・エシックス 報告者 平手賢治(岐阜協立大) 討論者 石田幸生(亜細亜大) 座長 佐々木亘(鹿児島純心女子短期大)	ケアリング理念をめぐる論点の考察：教育学の観点からリーアン・アイスラー「ケアリング・エコノミクス」を捉え直す 報告者 石崎達也(東京福祉大) 討論者 渡邊幸良(同朋大) 座長 宮本恭子(鳥根大)
[4]	14:30 新高齢女性に対するファッション消費額の減少における経済・文化への影響：百貨店におけるリキッド消費者向けデジタルマーケティングの戦略と課題 報告者 柏木理佳(戸板女子短期大) 討論者 鄭舜玉(園田学園女子大) 座長 廣瀬毅士(東京通信大)	公共空間における「シティズンシップ」の実践をめぐる問題状況：「シヴィリティ」と「寛容」概念を軸に 報告者 石黒太(就実大) 討論者 上沼正明(早稲田大) 座長 鈴木純(神戸大)	
	15:30 閉会		

## 自著を語る

間々田孝夫・藤岡真之・水原俊博・寺島拓幸著  
『新・消費社会論』  
(有斐閣、2021年)

間々田 孝夫

本書は2000年に出版された拙著『消費社会論』の全面改訂版である。

消費社会が論じられ始めたのが1980年頃、前著出版が2000年、本書が2021年で、その間約20年ずつの間隔があいているが、この間、消費社会は大きく変貌してきた。消費社会はもはや昔の消費社会ではないという認識が、私（をはじめ共著者）の消費社会研究の動機となっている。

1980年代頃、消費社会は、無限の物質的欲望と物質消費、消費を煽るマーケティング、生産よりも消費に志向する人間、顕示的・記号的な消費といったイメージで語られてきたが、これらは今や消費社会を特徴づける傾向とは言えなくなった。むしろ、そういった傾向がすべて転機を迎えていることこそが、現在消費社会の特徴なのである。

2000年出版の初版は、このような転機をとらえてはいたが、まだ中途半端であり、かつての消費社会論をまとめ直すという面ももっていた。それに対して今回の改訂版は、よりはっきり転機のほうを主題にしていると言えるだろう。その中で力を入れたのは、環境問題その他の社会問題への対応、消費社会の持続可能性の問題であり、多くの紙数をそこに費やしている。そのほかに、この間急速に発展し消費の世界も変えつつある情報化の問題、21世紀に入って特に注目されるようになったリスク社会の問題を視野に入れ、消費社会の変動的側面を前面に打ち出したのが本書である。

こういった新しいテーマについては、3名の共著者に応援を依頼し、それぞれ1章を担当していただいた。既存部分については、私が2020

年代の現実に合わせて大幅に書き換えた。

また、本書では、近年私が提唱している「消費三相理論」を取り入れ、消費社会の構造的変動を適切に理解するための理論的枠組を示した。

このような改訂を経て、本書は初版以上に、消費社会のさまざまな側面に目が行き届いたテキストになったと自負している。

現代の消費社会を理解するために、ぜひご一読をお願いしたいと思う。  
(立教大学)

## 「経済社会学」を教える

寺島 拓幸

筆者は、消費社会学に関する講義を複数の大学で、ゼミを本務校で10年以上にわたって担当している。

毎年学生たちが苦戦するのは、「消費を社会学的に検討する」ことである。ゼミでは、なるべく具体的な消費現象を研究テーマとして学生に選択してもらっている。すると、ファッションやオタク文化から、最近の「インスタ映え」やフリマアプリまで、学問的な関心のみならず個人的な趣味嗜好に沿って各々が題材を決定していく。ところが、アプローチ方法を検討する段階になって、多くの学生は、慣れ親しんでいないはずのマーケティング的な視点を突如導入しはじめる。つまり、ある商品・サービスを選好する消費者心理や購買にいたる消費者行動を分析しようとするのである。しかし消費社会学では、消費というミクロな行為をよりマクロな社会に結びつけることが求められる。このため、働き方やライフコースの変化、少子高齢化、個人化、グローバル化、情報化など、他の社会学系の授業で学んでいることを消費の領域に応用できる機会であると助言するようにしている。

長年授業を担当してきて感じる変化は、顕示的消費や記号消費といった当該領域における古典的なテーマの訴求力が弱まったことである。現在の学生は、モノを用いた相互行為やアイデ

## 部会報告要旨

### 東西合同部会報告要旨

#### 自由であるための条件について —ミルとグリーン—

竹口 隼人

自由の背後に想定された人間像をもとに、自由がどのように構想されてきたのか、19世紀イギリスの思想家、J.S.ミルと T.H.グリーン の思想を通じて検討する。

ミルは『自由論』において、他者に危害を加えない限り、自らの幸福を自らの方法で追求できることを（市民的）自由とした。ミルが価値の基準を功利性とした以上、自由も功利性が基礎にある。『功利主義論』においてミルは、幸福を量的・質的な差異がある快樂の増大と苦痛の欠如を意味するとし、人間は必ず高次の快樂を選ぶと想定する。高次の快樂の選択には、『論理学体系』においてミルが、行為主体に働きかける誘因を全て知れば、ある行為が必ず実現されると予示されるとした必然性が関係すると考えられる。ミルは、その下でも人間には性格を形成する力があり、自らの性格を修正できると感じる人が道徳的に自由だと認める。

グリーンは『自由立法と契約の自由』において、自由の真の意味を探求し、それを価値あるものを実現できる能力を有することだとした。価値あるものに関連してグリーンは、『意志と道徳的進歩に用いられる自由の異なる意味について』では、人間の本性であり、かつ、その完全な実現を人間には果たすことができない自己の満足を、究極的価値基準である人格の完成に自ら見出そうとする主体こそ自由だとする。ただし、人間の本性は自己の満足であり、人格の完成の実現は各人が自らなすべきことだと位置づける。

ミルもグリーンも、自由であるということの背後に、性格を修正ないし人格を完成しようと

ンティティ形成などにはもはやリアリティを感じないようである。代わりに、コト消費、ミニマリスト、SNSの影響などを取り上げると、それらを日常的に実践している学生の反応が芳しくなる。意外に反響が大きく感じられるトピックは、エシカル消費である。他の授業でさまざまな社会問題を学んでいるためかもしれないが、それ以上に、私たちが日常的におこなっている消費の持続可能性が社会全体として意識されるようになったことの反映ではないだろうか。筆者の学生時代と比べると消費文化の方向性がずいぶん変わっている。そうした変化に目を配りつつ、時代錯誤な授業にならないよう努めている。（文京学院大学）

## 部会報告

### 東部部会報告

日時：5月8日（土） 14時～15時

形式：オンライン開催

参加者：15名

報告者 森川幸紀雄

（高崎商科大学短期大学）

報告テーマ：世界遺産富岡製糸場 国宝西置繭所での模擬ブライダル —コロナ禍のホスピタリティ業界感染予防策検証と NEW BRIDAL STYLE の提案—

（大野正英）

### 西部部会報告

※報告者を募っておりましたが希望される会員がおられなかったため、予定されていた西部部会は中止とさせていただきます。

（藤岡秀英）

する主体が想定されている。ミルの想定する主体は、条件が整えば必ず性格の修正が選択されるとされる一方、グリーンの想定する主体は、人格完成に満足を見出すかは各人の選択だと解釈できる。両者の想定する主体の意味を詳細に検討する際、ミルの言う条件とグリーンの想定する主体の関係、両者の想定する主体の社会的側面を検討する必要がある。（神戸大学・院）

## 東部部会報告要旨

### 世界遺産富岡製糸場 国宝西置繭所での模擬ブライダル—コロナ禍のホスピタリティ業界感染予防策検証と NEW BRIDAL STYLE の提案—

森川 幸紀雄

本研究は、昨年9月20日に実施した本学独自の課外活動である世界遺産富岡製糸場国宝西置繭所での「模擬ブライダル」本番までの約4か月をかけ、ゼミ生達と共にブレインストーミングやグループディスカッション、プランニングした過程を考察したものである。また現代ビジネス学科ホテル・ブライダルコースの私のゼミ1年生と、1年以上続く新型コロナウイルス感染拡大の中、「模擬ブライダル」で導入した様々な感染予防策を考察し、今後のWith/Afterコロナ時代にどれだけ有効であるのかを考えた。またリモート操作が出来る分身ロボットOriHimeなどの使用により、遠隔地に住む高齢者や基礎疾患などがある方々が、感染を気にすることなく挙式やイベント参加出来るかなどを検証した。

それに加えて、アメリカ合衆国のスタンフォード大学、デビッド・グラスキー教授（社会学、貧困と不公平研究センター代表）が「行動ネットワークモデルから見る不公平と経済再開」の研究結果や、スパコン富岳を利用し日本政府への提言を行ってきたAIアドバイザーボードの研究資料などを基に、地元ホスピタリティ業

界（ブライダル、ホテル、旅館、レストランなどの飲食業、テーマパークなど）へ、新たなNEW BRIDAL STYLEを緊急提案していくことも重要な目的であることを記しておきたい。

また昨年10月に整備され、一般公開された国宝西置繭所のオープンに際してのモデルイベントとして実施した。富岡製糸場では「活用する国宝」をモットーとして様々なイベントを積極的に受け入れてきている。大学と地域連携という観点から、地元の街おこし、地域の観光資源活用、経済社会的インパクトなどを見るうえでも雛形となると考えている。今後はこれらの研究結果を踏まえ、さらに授業改革を行い学生達と共に新たなブライダルスタイルを追求し、360度広角カメラ、VR（仮想現実）やAR（拡張現実）、ライブ配信などの導入、活用可能性を追求しユニバーサル・ウェディング（障がい者、入院患者、高齢者でも参加出来る挙式スタイル）などをデザインしていきたいと考えている。

（高崎商科大学短期大学部）

## 西部部会報告要旨

※部会報告が中止となりましたので、報告要旨は非掲載とさせていただきます。

## 議事録

### 東部部会役員会議事録

日時：2021年5月8日（土）13時～14時

会場：Zoomによるオンライン会議

<議題>

#### 1. 新入会員承認について

上沼理事より、新規入会者がいないことが報告された。

#### 2. 社会学系コンソーシアムについて

- 恩田理事より、入会が承認され、恩田理事と間々田理事が評議員となり、年会費が10,000円になることが報告された。
3. 大会参加費の事前徴収について  
恩田理事より、年会費の郵便振替に伴い、大会参加費の事前徴収について諸条件などを検討しながら、6月の東西合同役員会で西部に提案していくことが報告された。
4. 第57回（2021年度）全国大会について  
恩田理事より、オンラインでの開催、現時点での申し込み状況の報告がされた。共通論題の東部からの報告者については、森理事が該当者に連絡を取ることが確認された。
5. 第58回（2022年度）全国大会について  
水原理事より、大会についての現況が報告された。
6. 会務報告

(1) 年報

鈴木理事より、年報43号について投稿数12本(大会報告8本・自由投稿論文4本)に対して掲載本数6本、書評6本で、6月下旬に原稿データ入稿予定ということが報告された。

(2) ニュースレター

宮垣理事より、69号は予定通り発行、次号70号の発行に向けて調整中で、6月22日が締め切りであることが報告された。

(3) 部会

大野理事より、以下の報告がされた。

日時：2021年5月8日（土）14時～15時（予定）

場所：Zoomによるオンライン報告

報告者：森川幸紀雄(高崎商科大学短期大学)

報告テーマ：世界遺産富岡製糸場 国宝西置繭所での模擬ブライダル—コロナ禍のホスピタリティ業界感染予防策検証と NEW BRIDAL STYLE の提案—

(4) 日本経済学会連合

織田理事より、3月22日にリモート会議が開催されたこと、新理事体制の選出、英文年報の寄稿、創設70周年記念事業についての報

告がされた。

(5) 日本学術会議

上沼理事から特に報告はなかった。

(6) 学会ホームページ

廣瀬理事より、閲覧不可の件について報告がなされた。4月19日に早稲田大学 web サーバーへのアクセスが遮断されたこと、5月8日10時時点で復旧のめどは立っていないこと、また当学会での個人情報流出の懸念はないことが報告された。

(7) 唐澤基金

宇佐見理事から特に報告はなかった。

(8) 本部事務局

上沼理事より、これまでにメーリングリストで連絡した同内容の報告がされた。

(恩田、古市、石田)

### 西部部会役員会議事録

日時：2021年4月28日配信

2021年5月5日意見受付〆切

※西部部会役員会は、新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、メール会議により開催した。

#### <議題>

- 今年度全国大会のオンライン開催について  
鈴木理事より、9月初旬の社会状況がきわめて不確実なことより、今年度全国大会もオンラインで開催したい旨説明があり、承認された。
- 東西合同研究会・役員会の開催について  
鈴木理事より、東西合同部会・役員会を2021年6月12日(土) 午後にZoomによるオンラインで開催予定である旨説明があり、承認された。
- 大会共通論題報告者について  
鈴木理事より、共通論題セッションの報告者が未確定のため推薦いただきたい旨依頼が

あった。また、自由論題報告枠にも余裕があるため、会員あるいは新入会員候補にお声がけいただきたい旨要請があった。

(村上寿来)

## 東西合同役員会議事録

日時：2021年6月12日 14:40~16:20

形式：Zoomによるオンライン会議

司会：鈴木純理事

### 議題

#### 1. 新入会員承認

村上理事より3名の新入会員について紹介があり、承認された。

#### 2. 第57回全国大会プログラムについて

鈴木純理事の進行により第57回全国大会の討論者(候補者)、座長(候補者)を確定した。また、近藤幹事より、全国大会をオンライン開催とするため、大会参加費を無料としたい旨提案があり、承認された。

#### 3. 社会学系コンソーシアムの加入について

恩田理事より、社会学系コンソーシアムへの加入が1月23日の評議会において承認された旨報告があった。また、これにより今後年会費が1万円かかるとの報告があった。

#### 4. 大会参加費の事前徴収について

恩田理事より、大会参加費の事前徴収について説明があり、東部役員会で事前徴収が承認された旨報告があった。これについて村上理事より事前徴収を実施する上での課題について説明があり、今後は対面開催における会費徴収業務負担の課題を明らかにしつつ、引き続き検討課題としていくこととなった。

#### 5. 学会ホームページについて

廣瀬理事より、学会ホームページへのアクセスが遮断された経緯と、再開に向けた作業について説明があった。今後も問題が生じる懸念があり、学会のホームページを大学のサ

ーバーでの運用ではなく、独自ドメインの取得およびホスティングサービスに契約していく必要もある旨説明があり、今後検討していくこととなった。

#### 6. 次回全国大会について

水原理事より、第59回全国大会を次の要領で開催予定である旨報告があり承認された。また、対面による開催は感染状況により判断したい旨説明があった。

大会校：信州大学

日程：2022年9月3日(土)・4日(日)

大会テーマ：「科学技術と経済社会」(仮)

#### 7. 会務報告

##### (1) 年報

鈴木康治理事より、年報43号の編集経過について報告がなされた。

##### (2) ニュースレター

豊山理事より、69号の発行と、70号の編集経過について報告がなされた。

##### (3) 部会

大野理事より、東部部会の開催についてオンラインで開催された旨報告があった。

藤岡理事より、西部部会の開催が12月・5月いずれも中止となった旨報告があった。

##### (4) 学会連合

織田理事より、日本経済学会連合の英文年報への寄稿が求められる旨報告があった。

##### (5) 日本経済学会連合

森理事より、日本経済学会連合への出席について報告があった。また、学術会議に関する声明発表については行わないことになった旨説明があった。

##### (6) 本部事務局

上沼理事より、資料に基づき東部本部事務局の活動について報告があった。

村上理事より、西部本部事務局の活動について報告があった。

##### (7) 唐澤基金

宇佐見理事より、唐澤基金の経過のうち報告があり、昨年度はオンライン開催だった



ため振込先が不明な対象者が1名いる旨報告があった。

#### 8. その他

小林会長より挨拶があった。また、慣例では今年度全国大会で会長講演が開催される予定であったが、オンライン開催でもあり、対面での次回大会で行いたい旨要望があり、承認された。(村上寿来)

### ホームページのご案内

全国大会の開催概要や年報・ニューズレターのバックナンバーなど、学会活動の情報を随時掲載しています。あわせてご活用下さい。

(廣瀬毅士)

<http://web.waseda.jp/assocs-soes/>

### 会員異動等

#### 日本経済学会連合評議員会報告

日本経済学会連合 2021 年度第 1 回評議員会が5月24日(月)午後6時よりオンラインにて開催された。

報告事項としては、まず、2021 年度第 1 次補助申請審査報告(1 件の学会会合費補助)があった。次に、連合ニュース第 57 号 WEB 発行、創設 70 周年記念事業(YouTube テスト動画の配信)について報告がなされた。

協議事項としては、2020 年度会計監査報告がなされ、承認された。

その他事項として、日本経済学会連合として日本学術会議会員候補任命拒否問題に関する共同声明を発表する意向の有無について複数の評議員から質問がなされた。このことについて、引き続き協議はしていくものの、加盟学会が多く、かつ、多様であることから声明発表には困難と考えられ、慎重にならざるを得ないとの理事長の見解が示された。(森周子)

#### 【新入会員】

市川 勝 辻村外科病院  
地域における医療提供体制の構築  
(推薦) 小林甲一・村上寿来

河合 純 東京福祉大学  
地域包括ケアシステムとひきこもり支援  
(推薦) 伊東真理子・近藤重晴

村川 浩一 東京福祉大学  
社会福祉学、高齢者福祉、社会政策  
(推薦) 伊東真理子・近藤重晴

#### 【所属変更】

今池 康人 立教大学 経済学部  
小田中 悠 東京大学大学院 情報学環  
鄭 舜玉 園田学園女子大学 経営学部

**経済社会学会年報 自由投稿論文募集**

〒110-0005 東京都台東区上野 7-7-4

第一工業大学工学部鈴木研究室内

経済社会学会年報編集委員会事務局宛

TEL : 03-5246-4733 E-mail : editsoes@ueno.daiichi-koudai.ac.jp

・ 東部本部事務局

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1

早稲田大学社会科学部 上沼正明研究室

E-Mail : kaminuma@waseda.jp

・ 西部本部事務局

〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町 1-25

名古屋学院大学現代社会学部

村上寿来研究室

Tel. 052-678-4078 (村上研究室)

Tel. 052-678-4089 (総合研究所事務局)

Fax. 052-682-6812

E-Mail : murakami@ngu.ac.jp

---

**経済社会学会 The Society of Economic Sociology**

発行日 : 2021 年 7 月 27 日

発行所 : 〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町 1 番 25 号

名古屋学院大学現代社会学部内 経済社会学会 西部本部事務局

TEL/FAX : 052-678-4078 (村上寿来) E-Mail : murakami@ngu.ac.jp

WEB : <http://web.waseda.jp/assoc-soes/>

発行人 : 小林甲一

編集人 : 宮垣元・小田中悠 (東部), 豊山宗洋・山本圭三・猿渡壮 (西部)

印刷所 : (株) 田中プリント TEL : 075-343-0006